

# モダントレーニング研究会のあゆみ ～研究会の活動から見えてくること～

○鈴木由起子\* 石橋泰\* 亀田陽子\* 神谷厚子\* 河先眞弓\* 桑原淑子\* 佐々木弘子\* 島宮衣津子\*  
砂田眞弓\*(中央労働災害防止協会) 曾我芳枝\*(東京女子大学) 玉城恭子\* 福井修子\* 大和優子\*  
渡辺陽子\* 渡辺律子\*(文教大学) 柳 宏\*(都留文科大学) \*モダントレーニング研究会

<キーワード> 動きのトレーニング、体操、身体調整法、水中体操、スポーツトレーニング、スポーツ経営

## 1. 目的

モダントレーニング研究会は、1972年に故・松延博(東京教育大学名誉教授)ら5名により設立された私人的研究団体である。設立当初は、民間スポーツ施設におけるトレーニングエリアのレイアウトや運動プログラム・運動器具の開発を目的としていた。その後5つの分科会での研究活動、年1回の「動きのトレーニングセミナー」の開催、研究集会、出版物の作成、体操作品の作成及び国内・国際大会での発表など活動が広がっている。設立から43年が経過し、設立当初のメンバー5名のうち4名が他界し、次の世代も高齢化しているため、研究会がどのような役割を担ったのか今までの活動を振り返る。

## 2. 方法

- (1)1979年から年1回開催しているセミナーのテキストから活動内容を振り返り分析する。
- (2)設立メンバーや歴代の会長、幹事長にヒアリングを行う。
- (3)現在のメンバーに無記名のアンケートを行う。
- (4) (1)～(3)より、研究会の活動を振り返る。

## 3. 結果・考察

### (1) モダントレーニング研究会とは

本会は「人間の動きに関する研究全般を対象とし、運動文化における『動きのトレーニング』の研究を行う」を目的とし、会則に則り運営されている。

現在会員は36名で、会員の職業は教員や運動指導者が多くを占めている。また、過去の運動歴は体操関係、ダンスに限らず様々なスポーツの経験者達である。

### (2) モダントレーニング研究会の成り立ち

**創成期**(1972～1979) 松延がスポーツクラブの設計、運動プログラムの開発の依頼を受け、その助手として招集された深瀬吉邦(中央大学)、春山国広(筑波大学)、中野偉夫(静岡大学)、石橋泰(東京芸術大学)と共に、多数のスポーツ施設の作成や指導員の育成を行った。また、松延博の体操作品の実演や講習をした。

**発展期**(1979～1988) 松延が大学退官と共に研究会を退会した後、新メンバーを迎え会則も整えられ深瀬を会長として組織的に活動をしていった。

「体操」「身体調整法」「水中体操」「スポーツトレーニング」「スポーツ経営」の5つの研究分科会を設立し、体操教室やセミナーの開催、研究成果の出版などの活動を展開している。

セミナーの開催当初には、ドイツからキーダイッシュ女史(注1) やクリスチャーネ女史(注2)などの海外講師を招聘した。

**拡大期**(1989～2003) メンバーの一員である島貫がスポーツ企画運営会社を設立したことにより、スポーツクラブの設計等の事業は仕事として請け、研究会の活動から独立した。

また、この時期から海外での作品発表を始めたこともあり、体操教室のメンバーが研究会のメンバーに多数加わった。

エアロビックダンスブームが到来し、(社)日本エアロビック連盟の依頼により、「エアロビック」及び「アクアエアロビック」の指導員養成のための理論を構築し、テキスト作りに深く関わった。

研究集会の開催を開始し、外部から講師を招き各種講義を企画・実施している。

**安定期**(2004～現在) 日本体操学会の「いいからだの日」に賛同し、毎年イベントの開催を開始する。体操作品を日本体操祭などの国内大会や世界体操祭、国際体操祭などの国際大会で発表をしている。また、水中体操ではこれまでの研究のまとめに取り組んでいる。

### (3) 現在のメンバーによるアンケートから

研究会が長く続いてきた理由を知る一助としてアンケートを行なった。そこでは、①入会の時期と動機、②活動状況について、③活動を続けてきた理由について、④継続する間の工夫・苦労について、⑤続けてきてよかったことについて・今感じている問題について、⑥研究会活動についての要望・期待について、質問した。

その結果、自己の動きの質的な向上とともに成果発表の場があること、自己の仕事に生かせる知識や情報が得られることが継続の最大の理由であることが明らかになった。また、設立メンバーの深瀬の考えであった「ゆるやかな研究会」が維持されてきたことが根底にあり、その為メンバーの良好な人間関係が築かれてきたことが窺えた。

## 4. おわりに

今年で43年を迎えるモダントレーニング研究会は、途中でメンバーの増減があったが、学閥や過去の運動経験にとらわれず、男女合わせて現在36名で活動している。

本研究ではその活動を振り返り、これまでのあゆみを四期に区分し概観してきた。その特徴として、研究面では深瀬、体操実技面では石橋という牽引者の存在があり、「ゆるやかな研究会」の維持、練習場所(活動拠点)が確保できたことがあげられる。研究会は大規模な団体ではないが常にその時代の先端に立ち、研究に取り組んできたことが明らかになった。また、学ぶこと、動くことが楽しく面白いと感じられる指導者仲間が集まって活動しているのがモダントレーニング研究会であり、それこそが共通する帰属感であり、長く活動が続いてきた理由であると考えられよう。

注1) ドイツ・シュツットガルトにある私立「キーダイッシュ・スポーツ体操学校」初代校長

注2) キーダイッシュシュレーの卒業生であり著名な指導者